

# 2023 年度 日本山羊研究会 課題解決型研究の公募について

日本山羊研究会  
会長 新出昭吾

2023 年度日本山羊研究会（全国山羊ネットワーク研究部会）の課題解決型研究（単年度）の公募を、つぎのとおり決定しました。

つきましては、公募要領を参照の上、2023 年 7 月 14 日までに、『2023 年度 課題解決型研究実施申請書』（別紙 1）を日本山羊研究会事務局（以下、当事務局）に提出ください。

## 【 公募要領 】

### 1 公募対象

公募対象は、全国山羊サミット分科会、情報交換会等で収集された山羊にかかわる課題の解決に向けて行われる調査および研究とします。2023 年度の公募については『2023 年度公募対象の調査および研究テーマ』（別紙 2）をご参照ください。

### 2 応募資格

全国山羊ネットワーク会員であり、公募対象の調査または研究を試料分析やデータ解析まで遂行できる手法、手段を保有する人、団体であれば研究者如何を問いません。

### 3 研究実施期間

研究実施期間は、単年度で原則として 2023 年 7 月 28 日～2024 年 2 月 29 日とします。ただし、やむを得ぬ事情により研究の継続が必要な場合には、当事務局に申し出を行い、継続の判断を仰ぐこととします。

### 4 研究費および交付

研究費として、課題 1 件当たり上限 20 万円（消費税込）とします。なお、当該研究費に間接経費は含みません。研究費は、研究実施報告書等の提出（下記 9 参照）に基づく確定払い（立替払い）とし、研究者等の指定する口座に振り込みます。

旅費および賃金の支払いも認めますが、旅費の場合は現地での、賃金の場合は労務地での研究活動等の報告を、研究期間終了までにヤギの友へ投稿することを条件とします（それぞれ写真や図含め 1 ページ以上）。

### 5 応募方法

別紙『2023 年度 課題解決型研究実施申請書』に必要事項を記入の上、当事務局（[ign\\_research@googlegroups.com](mailto:ign_research@googlegroups.com)）まで提出してください。申請者 1 名あるいは 1 団体につき応募出来る調査または研究は 1 件に限ります。

### 6 応募期間

2023 年 6 月 26 日（月）～同年 7 月 14 日（金）

### 7 選考方法

提出された研究実施申請書は、全国山羊ネットワーク世話人会および当事務局で内容を審査し、予算の範囲内で採否を決定します。採択課題数は原則 2 課題までとしますが、審査結果によっては追

加で採択する場合があります（追加採択される課題は予算が減額されます）。なお、世話人会等からの意見を反映するように実施計画の修正をお願いすることもあります。

## 8 選考結果

選考結果は、2023年7月28日までに研究代表者のメールアドレスに通知します。

## 9 研究実施報告書等の提出

研究終了後、研究者等は、研究実施報告書（A4 サイズ、横書き、自由様式）、領収書および収支報告書を研究期間終了日までに提出して頂きます。

## 10 研究成果の公表

本研究費による研究成果は、日本山羊研究会等での発表を原則とします。

## 11 個人情報の取り扱い

本研究の申請に係る個人情報は、本研究業務の目的以外には一切使用しません。

## 12 守秘義務

申請者が当事務局の許可なく無断で申請書や審査結果の記載内容をネット等に公開することを禁止します。

## 別紙1 2023年度 課題解決型研究実施申請書

( 年 月 日)

課題名	担当代表者（所属、メールアドレス）：	
研究目的（別紙2の背景と目的を参考に記述ください）		
研究内容（別紙2の具体的内容を参考に記述ください）		
研究予算（大まかな費目ごとに記述ください）		
以下は記入しないこと		
研究評価（研究内容評価者名）		
重要性（1～3）：	緊急性（1～3）：	妥当性（1～3）：
その理由	その理由	その理由
その他（研究に希望する意見）		

各点数 1 低い, 2 普通, 3 高い

## 別紙 2 【 2023 年度公募対象の調査および研究テーマ 】

### ① 山羊の生産ステージ別乾物摂取量の実態調査

【 背景と目的 】 現在、全国山羊ネットワーク研究部会において「山羊飼料計算プログラム」の作成が進められている。本プログラムによる飼料計算の精度を向上するためには、飼養下の実態に近い乾物摂取量が必要であるが、データの収集が不十分である。そのため、飼養下の実態を反映した山羊の乾物摂取量を明らかにすることを目的とした調査および研究を公募する。

【 具体的内容 A 】 山羊品種（乳用種、肉用種、小型種）別の育成期から成熟期の乾物摂取量、泌乳山羊における乳量水準別の乾物摂取量、肥育山羊の増体ごとの乾物摂取量について調査する。山羊の飼養条件として、粗飼料給与割合 50%以上、飼料全体の CP（粗タンパク質）含量 12%以上、TDN（可消化養分総量）充足率 100%前後で、複数日（例えば、3 日間）連続調査（最低 1 カ月 1 回）とし、給与飼料の乾物含量、給与量、体重を合わせて調査する。

【 具体的内容 B 】 ネットワーク会員参加型の研究として、山羊品種（乳用種、肉用種、小型種）ごとに日々の管理における給与実態を飼料給与プログラムで計算するとともに、給与飼料の種類ごとの乾物量、山羊の体重、月齢、泌乳量などのデータを収集し、実例から乾物摂取量を推定する。

### ② 放牧地における野草種の化学的組成と消化率の推定

【 目的 】 近年、野草地での山羊放牧は一般的になりつつある。しかし、その際の選択採食する野草の種組成、摂取量、化学成分組成および消化率については十分な情報がない。より適切な放牧管理を行うためには摂取飼料の情報が必要不可欠である。そのため、野草地における放牧山羊の摂取飼料成分を明らかにすることを目的とした調査および研究を公募する。

【 具体的内容 】 野草地において、コドラート（方形枠）等を活用し、山羊の摂取野草種の特定と化学的組成、摂取量を明らかにする。あるいは、野草バイオマスをもとに 2~3 日分刈取りし、代謝箱（畜舎）内における摂取量と糞量の関係式を明らかにする。さらに、放牧地での糞袋装着による全糞計量と合わせ、これらの関係式から乾物摂取量を推定する。

### ③ 山羊糞の堆肥化特性と作物への肥料効果の検討

【 目的 】 家畜排せつ物を適切に堆肥化し、農地に還元することは、家畜排せつ物処理に由来する温室効果ガスの排出抑制や化学肥料の使用量の低減に資するなど、持続的な農業生産を図る上で特に重要である。こうした中で、多頭数を飼養する山羊農家においては多量に排出される山羊糞の耕種農家のニーズに合った堆肥の生産・利用が求められている。そこで、山羊糞の成分組成の変動、堆肥製造における発酵特性、C/N 比などを指標とする腐熟化について明らかにすることを目的とした研究を公募する（簡易堆肥化装置などを活用）。

【 具体的内容 】 他の畜種糞と比較しながら、山羊糞の化学的組成を明らかにし、堆肥化における含水量と堆肥発酵特性、発酵促進資材等を活用した腐熟化に伴う化学的組成の推移を明らかにする。また、作物に及ぼす山羊糞堆肥の施用効果を明らかにする。

### ④ 地域における低利用・未利用飼料資源を活用した山羊飼養技術の検討

【 目的 】 昨今の輸入粗飼料、穀物の高騰は山羊飼養においても影響は大きい。そこで、飼料費低減のためにも、地域における低利用・未利用飼料資源の飼料化技術、給与技術の開発を目的とした研究を公募する。

【 具体的内容 】 食品副産物残渣、河川敷におけるアシ、飼料イネ、スプリングフラッシュ野草等のサイレーシ化に至る技術開発と山羊への給与技術、給与効果について明らかにする。